

## 研究室だより

今年度末にお二人の先生が退職されることになりました。おひとりは、この3月で定年退職される情報社会学の北村日出夫先生、もうおひとりは国際社会学・経済社会学を担当されていた服部民夫先生です。服部先生は東京大学大学院人文社会系研究科韓国朝鮮歴史文化専攻に教授として転出されます。

北村先生は、1965年に同志社に入社されました。新聞学専攻で32年、社会学専攻に移っていただいてから5年、計37年間にわたって同志社で教鞭を執ってこられたこととなります。北村先生のこれまでのご研究につきましては、多数の著書・論文でご存じのこととは思いますが、今回同志社社会学研究にご寄稿いただきました論文とシンポジウムでのご報告には、これまでの先生のご研究が集約されており、お仕事の概略を知ることができます。

服部先生は1996年に東京経済大学から同志社に着任されましたので、6年間同志社に在職されたこととなります。ご存じの通り、服部先生は韓国社会研究がご専門で、その業績は内外で高く評価されております。今回のご転出も、東京大学がアジア研究の拠点となる独立研究科を設置することになり、その韓国研究部門の中核としてのお招きだったとお聞きしております。社会学専攻は、北村先生と服部先生という、左右の両エースを失うことになり、弱体化は否めませんが、残ったスタッフで教育・研究に精進してまいりたいと考えております。

今年度、社会学専攻では昨年度に引き続き博士論文が提出され、2001年9月に『組織内プロフェッショナルの組織準拠性に関する研究——ローカル・マキシマム概念による検討——』で藤本昌代さんに社会学専攻では2番目の博士号が授与されました。藤本さんは、博士論文提出後、独立法人経済産業研究所においてポスト・ドクトラル・フェローとして、国際的な視野から産業・情報・組織にかかわる研究に取り組んでおられます。また藤本さんは、4月より北村先生の後任（情報社会学担当の専任講師）として、我々の仲間に加わります。若い、新しい力で社会学専攻の発展に寄与していただけるものと確信しております。（尾嶋）

## 2001 年度 博士論文題目

氏 名	論 文 題 名
藤 本 昌 代	組織内プロフェッショナルの組織準拠性に関する研究 ——ローカル・マキシマム概念による検討——

## 2001 年度 修士論文題目

今 村 敬 子	祭りにみる高齢者の役割と生きがいの研究 ——“飛騨高山祭り”の事例研究を通して——
伊 藤 耕 太	携帯電話の社会学 ——人間関係の「選択性」に関する調査研究——
奥 野 江里子	「私的な子ども観」の形成過程の研究
宍 戸 邦 章	高齢期のパーソナル・ネットワーク研究 ——ネットワークのなかの家族とコミュニティー——
和 田 浩 平	旧ユーゴスラヴィア民族紛争原因論の再考 ——旧ユーゴスラヴィア民族紛争とエスニシティの関係——
三 宅 香 織	大阪の都市化に伴う芝居町「道頓堀」の変容 ——「集い手」の変化の視点から——

## 執筆者紹介

北村日出夫 (きたむら ひでお)  
同志社大学文学部教授  
情報社会学

藤本 昌代 (ふじもと まさよ)  
独立行政法人 経済産業研究所 ポスドクフェロー  
産業社会学、職業社会学、情報社会学  
fujimoto-masayo@rieti.go.jp

粟谷 佳司 (あわたに よしじ)  
同志社大学文学研究科社会学専攻 博士後期課程  
文化社会学、メディア研究  
yoshiji@gray.plala.or.jp

吉岡 威史 (よしおか たけし)  
同志社大学文学研究科社会学専攻 博士後期課程  
文化社会学、共生研究  
ela3802@mail2.doshisha.ac.jp

逢 軍 (ばん じゅいん)  
同志社大学文学研究科社会学専攻 博士後期課程  
社会人類学、中国社会研究  
ls3809@mail2.doshisha.ac.jp

吉田 崇 (よしだ たかし)  
同志社大学文学研究科社会学専攻 博士後期課程  
ナショナリズム論  
elb3801@mail2.doshisha.ac.jp

(執筆順、所属は2002年3月31日現在)

## ◆ 編集後記 ◆

『同志社社会学研究』第6号をお届けします。

今年度を最後に北村先生がご退職されます。本号は、それを記念した特集号とさせていただきます。巻頭に北村先生の論文、続いて先生に大学院や研究会で指導・薫陶を受けた後期課程の院生並びに卒業生の論文3点、最後に学外から3先生をお招きして昨年12月に開催しました社会学会シンポジウム「メディアの死滅と再生——グローバル、ナショナル、ローカル、そしてアイデンティティ」の記録、計5編をまとめて「メディア・情報・文化」という特集を組ませていただきました。それに後期課程の院生論文2点を加えて、今号は計7編で構成されております。

こうした形で研究論集が続いているのも、院生たちが日々研鑽を積んだ結果だといえます。今後とも、積極的な研究活動と成果の公刊が続きますことを祈っております。さらに充実した雑誌とするためには、公表された結果に対する皆さまのご意見やご批判が不可欠です。今号にも執筆者紹介のところに、メールアドレスを加えております。お読みいただけましたら、是非、ご意見、ご感想、ご批判等をお送りいただきますようお願いいたします。

なお、シンポジウムの記録作成に関しては、テープおこしを中心とした繁雑な作業を、平井順さん、黒宮亜希子さん、荒木菜穂さんに引き受けていただきました。  
(尾嶋)

## ◆ 編集委員 ◆

北村日出夫

尾嶋 史章

加茂 陽

金 香男

小林 大祐

吉岡 威史

荒木 菜穂

同志社社会学研究 第6号

2002年3月20日発行

発行人 同志社社会学研究会

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入

TEL. 075-251-3441

FAX. 075-251-3066

印刷 協和印刷株式会社

## 「同志社社会学研究」編集規定

1. 本研究誌は同志社社会学研究学会の機関誌として社会学の研鑽に寄与し、また会員相互の研究交流に資することを目的とする。
  2. 掲載内容は以下のものとする（枚数：400字）
    - 研究論文（40～60枚）
    - 研究ノート（20～30枚）
    - 学会・研究動向（10～20枚）
    - 書評・紹介（10～15枚）
    - 研究室だよりなど
  3. 編集委員は本学社会学専攻教員、同院生及び同卒業生の代表により構成される。
  4. 投稿者は本学社会学専攻教員、同院生、同修了・卒業生とする。
  5. 原稿は未発表のものに限る。掲載の可否は、専門のレフリー（本学教員＋外部の専門家各1名）の審査の結果を受け、最終的に編集委員が行う。
  6. 原稿の締め切りは12月末、発行は翌年3月とする。
  7. 執筆要項
    - 横書き、口語常体、完成原稿で提出。註や参照文献の書式は日本社会学会機関誌「社会学評論」に準じ、論文の最後に別々にまとめる。詳しい執筆要領は別に定める。
  8. 提出原稿の形式
    - 題目は日本語と英文タイトルをつけ、フロッピー1枚とハードコピー（40字×40行）を3部提出。（フロッピーは1.4MBを使用し、MS-DOS及びMACのテキストデータとする。）
- \*その他の事項については、社会学の研究誌としての性格に鑑み、編集委員会が対応する。